

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100485		
法人名	株式会社 さくらケア		
事業所名	グループホーム和音		
所在地	宮崎市江平中町7番地19		
自己評価作成日	平成23年7月22日	評価結果市町村受理日	平成23年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhou.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=4590100485&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成23年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は市街地中心部に位置し、交通の便もよく条件の整った立地となっています。さらに江平熊野神社に隣接しており、緑あふれる景色を眺めることが出来ます。各居室は全室南向きで、日中を過ごすホールは広々と明るく、快適な環境となっているのも特徴の一つです。1階に併設されている小規模多機能型居宅介護施設との交流もあり、笑顔の絶えない施設を目指して、サービスの提供をさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宮崎市の中心市街地で、近くには神社、病院、学校、商店街があり、利便性に恵まれた静かな環境の中にホームは立地している。1階に同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所があり、2階がグループホームで、連携して運営されている。まだ開業してまもなく歴史の浅いホームであるが、施設長と管理者は、人材育成に力を入れ、職員を法人内・外の研修に積極的に参加させ、質の高いケアが実践されている。また、短期間に運営推進会議を軌道にのせ、地域の祭りには職員をボランティアとして参加させる等、地域との交流を積極的に推進している。利用者は、職員の心のこもったケアに支えられ、元気で安心して暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を作り、出勤時に必ず目を通すよう掲示している。	ホームの開設時に理念について全員で話し合い、法人全体の理念とは別に、ホーム独自の理念を作り上げている。その理念を共有し、地域との積極的な交流や利用者への温かいケアとして実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入、地域で行われる祭り等のイベントへ積極的に参加するなどして、地域交流に努めている。	自治会に加入し、地域の行事には積極的に参加している。地域の祭りである、江平の子安観音には職員がボランティアとして参加し、地域の人々と交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、地域の方々に情報の発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	客観的な立場からアドバイスを頂き、施設の質の向上に繋げるよう取り組んでいる。	運営推進会議を短期間の間に軌道にのせている。会議では江平児童クラブとの定期交流や七夕会の催し等について話し合いを行い、そこでの意見を運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村が行う研修等には積極的に参加し、最新の情報を共有すると共に、訪問して顔を合わせる機会を作るようにしている。	市の担当者からは、開設に当たっての手続き等について指導を受け、ホームからは運営状況や課題等について報告している。また、市が主催する研修会には積極的に参加して、交流を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的、精神的拘束を行わないよう努めると共に、利用者様が安心して過ごして頂けるようなケアに取り組んでいる。	職員は、法人内・外の研修や勉強会で身体拘束の弊害について学び、正しく理解しており、身体拘束のないケアに全員で取り組んでいる。日中は玄関や居室には鍵をかけていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力や虐待をしないことはもちろん、施設内で事例集を利用して定期的な研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度などの内容の研修があれば積極的に参加し、制度への理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、懇切丁寧な説明を心がけている。不安や疑問点がないか、確認する時間をとるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の窓口を設置している。また、日頃よりご家族の方へは積極的に声かけし、意見や要望を話しやすい環境づくりを行っている。	運営推進会議にできるだけ利用者や家族の参加を呼びかけ、意見や要望を引き出す努力をしている。家族会を設けることも検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼、定期的に行う全体ミーティングの場において意見を出してもらい、全員で話し合うようにしている。	施設長と管理者は、毎月定期的に関く職員会議で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。出された意見や提案は、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の勤務態度や実績に基づき、平等に判断している。向上心を持って働けるよう、研修等への参加を呼びかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた外部研修への積極的な参加を呼びかけている。また、研修で学んだことを他の職員も共有できるよう、研修参加者は研修報告書を記入するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ加入し、研修や交流の機会を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的に声かけを行い、利用者様の不安をなくし、安心して過ごして頂けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面会時に、利用者様については勿論、家族の方の不安や要望についてもお聞きする時間を十分にとるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族より十分に話を聞き、管理者、ケアマネを中心に検討し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や掃除・洗濯など、利用者様と職員が共同で行えるよう努めている。又、季節ごとのイベントの準備も一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方には、出来る限り施設に来て頂くよう声かけすると共に、施設で行うイベントへの参加をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設は常に開放されており、面会に来られた方には、また来て頂けるようお願いしている。	知人や友人がいつでも気軽に訪問してもらえるように受け入れ体制を整えており、なじみの人の来訪が多い。家族の協力を得て墓参りする利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	イベントやレクリエーションを通じて仲良く生活して頂き、協力して生活することが出来るような環境づくりに心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の事情でサービス利用が終了した利用者様について、必要な範囲で施設での様子や好みなどの情報を伝えて、環境の変化による負担を最小限にするよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望や意向を最優先すると共に、意思疎通が困難である場合も職員同士で話し合い、利用者様の立場になって考えるようにしている。	職員は日々のかかわりの中で、利用者一人ひとりの思いや意向を理解するためのアプローチを一つひとつ丁寧に行っている。家族や関係者の情報も活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴や趣向などをご本人、ご家族よりお聞きし、全ての職員が共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の普段の生活の中から気づいたことを日誌に記録し、定期的に行うミーティングの時に、一人ひとりのケアの参考にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人やご家族と十分に話し合い、希望や意見を反映した介護計画となるように努力している。	本人や家族の思いや意向を聞き、職員間で十分話し合い検討して、利用者の視点に立った介護計画を作成している。	月に1回程度はモニタリングを行い、本人や家族の要望や変化に応じて、定期的に介護計画の見直しを行ってほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護日誌に記録し、職員が情報を共有できるようにしている。また、その情報を基に介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様一人ひとりのニーズを把握し、出来得る限り柔軟に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りへの参加やボランティア活動を行っている。季節ごとのイベントも積極的に行っていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望される医療機関に受診して頂いている。医療機関と施設との密な連携が、本人やご家族の安心感に繋がっている。	利用者はそれぞれにかかりつけ医がいるが、ほとんどの利用者が協力病院を利用している。月に2回の往診があり、いつでも受診や相談ができる良好な関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員が、日頃の生活状況のチェックを行うと共に、必要に応じて家族や医療機関へ連絡をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際は、家族の了解を得た上で医療機関と情報交換を行い、利用者様の負担を軽減するようにしている。又、近隣の医療機関の相談室に定期的な訪問を行い、日頃の関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、すぐに医療連携先の医師、看護師に連絡を取り、指示を仰ぎます。また、専門的な対応が必要になった場合には、責任を持って他の機関を紹介いたします。	重度化した場合の対応については、利用開始時に本人や家族にホームの指針を説明し、同意を得ている。関係者全員が方針を共有し、本人や家族の要望があれば、ターミナル期の対応については、前向きに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、緊急時の対応マニュアルを設置している。緊急時の連絡網も併せて設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行うと共に、消防隊員にも訓練に参加してもらい、必要な対策を行うようにしている。また、運営推進会議にて訓練の状況を報告し、地域との連携にも努めている。	消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。地域住民の協力についても働きかけを行っている。	非常災害時の特に夜間の場合は、職員だけの対応では限界があるので、地元消防団や地域住民の協力体制が必要であり、避難訓練への参加を呼びかけてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を個人として尊重し、プライバシーを守り、安心と尊厳のある生活を実現できるよう、礼儀正しい声かけ、部屋への出入りの際の挨拶等に注意している。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応がないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のペースでお考えをお聞きし、主体的な決定を行えるよう、職員は支援すると共に、その決定を尊重するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、レクリエーション等、利用者様の希望を最大限優先し、計画されたスケジュールにとらわれず、柔軟な対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みや意向を重視しながら、状況に応じた身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝い頂ける利用者様と準備や片づけを一緒に行っている。旬の食材を出来るだけ取り入れて、季節感を楽しんでもらうようにも配慮している。	利用者の好みに配慮し、旬の食材をとり入れたメニューとなっている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで、同じものを会話をしながら楽しく食べている。後片づけを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のバランスは栄養士に依頼している。一人ひとりの食事や水分の量は、日誌に記録するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には利用者の状況にあった支援方法にて、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、積極的な声かけでトイレへの誘導を行っている。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう自立に向けて支援している。できるだけおむつを使用せずに過ごせるよう、工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な水分補給や睡眠、運動などで自然排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日を決めているが、利用者様の意向を重視して、希望があればいつでも入浴できるようにしている。	入浴は、一応週2回としているが、希望があればいつでも入浴が楽しめるように支援している。入浴を拒む利用者には、無理強いすることなく、言葉かけや対応の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が希望する時は、いつでも休息や睡眠ができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用される薬の用法や用量を個別に整理し、飲み忘れや誤薬を防止している。また、日常生活の状況を出来る限りこまかく医師や看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活のちょっとしたことの中に、役割や楽しみを見出していただけよう努力している。季節ごとの飾りつけ等にもお手伝い頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や気温、利用者様の体調等に十分配慮しながら、散歩や外食、レクリエーション等を行っている。	近くの神社までの日常的な散歩や3階の屋上での散歩をしている。また、定期的に桜見や外食、買物等、できるだけ戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の意向を第一に考え、希望があれば所持管理をして頂いている。ご家族とも相談して対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内の電話はいつでも利用できるようにしている。手紙については、切手の購入、投函の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節ごとのしつらえとなるよう工夫している。音の大きさや温度・湿度については十分に注意している。	共用の生活空間は、適度の広さで、採光、換気、温湿等に配慮し、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。テーブルには利用者が散歩時に持ち帰った季節の花が飾られたり、畳のスペースがあり、家庭的で安心して暮らせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルとイス以外にも畳コーナーやベンチを設置し、利用者様同士、思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室は利用者様の馴染みのものや好みのもを持ち込んで頂き、その人らしいしつらえとなるようにしている。	居室は全室が南向きで明るく風通しの良い環境となっている。本人や家族と相談しながら、使い慣れたテーブルやイス、タンス、テレビ等を持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりの身体機能の状態に合わせた個別の設備や道具の利用を推進している。		